2015年度イリノイ州立大学教育研究セミナー派遣　報告書

３４２４　橋本　彩加

◇研修を通して

私はもともと海外に行くことや留学には興味はあったものの，なかなか行動することができず，3年生という少し遅い時期に行くことになってしまいました。私がこのプログラムに参加しようと決めた理由は，このプログラムでは現地の学校を見学することができるという点に魅力を感じたからです。平日はほぼ毎日，市内にある学校に訪問することができ，現場でしか味わうことのできないその場の雰囲気や子どもの様子を観ることができました。また，ホームステイでアメリカでの生活を楽しみ観光地にも足を運ぶことができる，とても充実した内容のプログラムでした。毎日，日本とは違う文化や習慣を自分で見て，経験することができるので，たくさん刺激を受けて帰ってくることができました。

楽しいこともたくさんありますが，不安なこともちろんありました。それは，コミュニケーションの道具の一つである言葉です。もちろん現地では英語しか通じませんので，今までしっかり英語の勉強をしてこなかった私はとても不安でした。私と関わってくれる人たちはやさしく，英語がうまく話せない私たちにもわかるように丁寧に接してくれたり，同じ留学生の方に助けてもらったおかげで，大半は英語が理解できずに困ったことはありませんでした。しかし，自分の言いたいことをうまく言えないことが多く，悔しい気持ちが残ってしまいました。日本にいると，英語を聞いたり話したりという場面はあまりないので，英語という言葉の壁はとても大きく感じました。

日本にいると当たり前と思うことでも，海外に行くとそれが当たり前ではなくなることがたくさんあります。今回の経験で，たくさんのことを見て感じることができたおかげで少し自分の視野が広がった気がします。この経験をきっかけに，自分自身も海外にもっと目を向けて考えてみたいと感じ，それと同時に将来教師になった際には子どもたちにも海外への興味や関心を持ってもらえるようにしたいと感じました。

◇各種アクティビティについて

〈学校訪問〉

研修期間中では，平日の午前中はほぼ毎日ノーマル・ブルーミントン市内にある学校へ訪問しました。小学校から高校まで多くの授業を参観することができ，アメリカの学校のよさや特徴を感じ，改めて日本の学校や教育のよさを知ることができる，よい時間であったと感じました。私はアメリカではどの学校においても，生徒が積極的に授業に参加しているという印象を受けました。日本ではアクティブラーニングがこれからの教育の重要なキーワードとしてとても注目されているので，授業で発言しやすい雰囲気をつくることや，生徒の発言に対する教師の反応が大切であることを改めて感じました。

また教室には黒板ではなくホワイトボードがあり，タブレットや電子黒板といった電子機器を用いた授業が行われていました。それだけではなく，学校によっては生徒に一人一台パソコンが与えられているところもありました。私は，こんなにもＩＣＴが活用されているとは思っていなかったのでとても驚きました。新しいものをどんどん取り入れ，学習しやすい環境をつくることは教師にとっても生徒にとっても良いことだと思う反面，自分で実際に手を動かして考えたり，板書１枚で本時の内容がわかるようにしたり，ノートで見返すことができる点は日本の授業の方がよいと私は感じました。もちろん，ＩＣＴを用いた方が生徒の理解が深まることがあると考えているので，上手に取り入れた授業も考えてみたいと感じました。

ほかにも休み時間に遊んだり給食を食べることができたり，校内や教室の様子もかなり日本と違うので，楽しく学校を回ることができました。

小学校の授業風景
教室内には様々なツールが置いてあり，リラックスして授業を受けることができます。

〈ＥＬＩ〉

午後には英語の授業（ＥＬＩ）がありました。およそ 3 時間の授業では，私たちのグループだけの授業でしたので，気楽に受けることができました。授業はもちろん，オールイングリッシュで行われますが，レベルは私たちに合わせてくれるので特別心配することはありませんでした。また，内容はリーディングやライティング，リスニングが主ですが，たまにゲーム形式の活動やスピーチもあったりするので，スピーキングも楽しくできました。

◇ホームステイについて

およそ一か月のホームステイでしたが，私をまるで家族かのように接してくれてとても過ごしやすい家庭でした。私の拙い英語でも理解してくれて，何から何まで本当にお世話になりました。夜には，料理が得意なホストマザーの手料理がふるまわれ，毎日おいしいご飯を食べることができましたし，一緒にマフィンやクッキーなどのお菓子をつくったりもしました。短い時間しか一緒にいないのに，私のことをよくわかってくれて，私の好きな料理をたくさん作ってくれました。本当に日本のことが好きな家庭で，最終週には，お好み焼きや，卵焼き，肉じゃがなどの日本食をふるまい，別のホストファミリーの方と日

本食パーティーもしました。暇な時には，一緒にゲームをして遊んだり映画を見たりと，一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

ホストファミリーと
最後の夕食。

◇休日について

休日は，観光地を訪問したり，ホストファミリーにショッピングに連れて行ってもらったり映画館や動物園に行ったりしました。

観光地は，スプリングフィールド，セイントルイスなどです。また，毎週日曜日には教会へ行きました。私がイメージしていたものとは違い，映画館の場所を借りてコンサートのような形で行われており驚きました。教会では，様々なイベントが催されているらしく，ダンスパーティーに参加してきました。毎週教会に行ったり集まったりは，日本ではないことなので不思議な感覚でした。

Springfield trip
Lincoln tomb にて。

◇最後に

今回，短期留学をとおしてたくさんのことを見たり聞いたり感じることができました。ここに書いたのはほんの一部です。留学したいけど迷っているという人がいたら，ぜひ思い切って行動してみてほしいです。

イリノイ州立大学への短期留学プログラム

3503　竹島 夏未

私にとってイリノイ州立大学に行った４週間は今までにないくらい充実したもので忘れることができないかけがえのないものになりました。英語を不自由なく使えるわけではなかったので仲間と助け合いながらの生活が楽しくって仕方ありませんでした。

このプログラムは、観光もできる・学校見学もできる・英語も学べるという３つの要素があります。どの要素をとっても、マットという優しい担当の方が要望に応えようとたくさんお話を聞いてくれるので自分たちがしたいこと、食べたいものはマットが叶えてくれました。マットは本当に優しいです。

ホストファミリーとの生活は毎日楽しい思い出ばかりが増えていきます。疲れてくると気になることも確かに出てきます。しかし、そんなことなどすぐに忘れるくらいそれ以上のことをホストファミリーはしてくれます。寂しさも恋しさも感じるけれどホストファミリーは温かく接してくれるのです。

私のホストファミリーは自宅でデイケアと呼ばれる保育園をしていました。そして週末になると教会の託児所でボランティアをします。ホストマザーの教会は地域の中で一番大きな教会です。左の写真は赤ちゃん用の部屋です。このほかにも年齢に合わせた託児施設のほかに大きなアスレチックがあったり、ライブホールがあったり想像してした教会とはかなり違いました。友人たちのホストファミリーもそうなのかと聞いてみるとそんなことはなくただお話を聞くだけの教会もありました。私も礼拝に参加させていただきましたがほぼバンドによるコンサートのような雰囲気だったので飽きることもなくただただ驚いていました。コーヒーが飲み放題だったのでひたすら飲んでいました。教会は信仰によってかなり違うので友人たちに他の教会について聞いてみるのも面白いと思います。ホストファミリーとの大切な時間なので、少なくとも一回は行った方が自分のためにもなるのではないかなと思います。

スーパーマーケットとモールは違います。日本でもそうですけれどイオンとダイイチと言ったところです。しかし、その規模が尋常じゃないです。写真は野菜コーナーです。オレンジ一つとっても３種類くらいあります。チョコレート・ナッツ・ヨーグルトどれをとってみても種類が豊富で、棚いっぱいに並んでいます。選べません。日本では食べられないようなヨーグルトも拓弾ありますし、オレンジジュース一つとってもどれを選べばいいかわかりません。行って損なしスーパーマーケット。楽しいです。小さい箱入りのポップコーンなんかも売っているのでお土産に最適です。美味しいです。

これは、レッドロビンというハンバーガー屋さんのバンザイという照り焼きバーガーです。パイナップルが入っています。日本の照り焼きとはやっぱり違います。しょっぱいです。しかし、肉とバンズがうまい。本当にうまいです。アメリカのパンはバターをつけたり、オリーブオイルとチーズをつけたりすると我慢できないくらいおいしいです。そして何と言っても肉です。日本とはまだ違う脂身の少ない噛み応えのある肉がなんとも言えずうまいのです。

そして仲間たちです。彼らとの４週間は忘れることができません。毎日笑い毎日疲れるくらい遊んでいろんな話をしました。きっと参加した皆さんも同じ経験、きっとそれ以上のことを経験できると思います。このプログラムが終わることなく続くことを願います。

3520　髙瀬　里帆

イリノイ州立大学へ短期留学

私は初めて海外に行きました。初めての入国審査で、すごい態度の悪い審査官に当たり最悪な気分で始まったイリノイ州立大学への短期留学。スタートは最悪でしたが、この１か月はとてもいい経験ができました。

私のホストファミリーは、ダウンとカイリの二人家族で、よくカイリの彼氏や友達が家に泊まったりしていつも賑やかでした。家庭での料理はホストファミリーが、チリ料理が好きなためか、思ったよりこってりな料理は少なかったように感じました。はじめのころは、昼食は作って持っていきましたが、せっかくアメリカにいるのにもったいない気がしたので、大学内にあるファストフードを食べて過ごしました。アメリカの料理はなんにでもチーズが入っていて、おいしかったのですが全部同じ味がしました。カップケーキなどのお菓子も、「あまい」「同じ味」という感じでした。一番おいしかったのは、ステーキです。アメリカは特に肉料理がおいしかったです。

プログラムで学校見学が組み込まれていて、市内の私立・公立の小中高の学校や専門学校に訪問しました。お菓子を食べる時間があったり、授業中にお昼ご飯を食べてたりと、とても自由な感じでしたが、電子黒板を使ったり、子供が 20 人ほどに対して教師の人数は1～2人できめ細やかな指導をしていました。学校によって多少の違いはあるものの、小さいころからパソコンに慣れ、自分のことは自分でやるという教育がなされていました。大学の講義も見学しましたが、英語を話すスピードも速く、授業内容も高度なものをやっていたためついていくのはとても大変でした。講義を見学できるようになるには、もっと英語力がなくてはいけないと感じました。

↑数学の授業風景。A4 くらいのホワイトボードで回答。

3520　高瀬　里帆

学校見学のほかにも、市内を見学したりミュージアムに行ったりしました。一番感動したのは、リンカーンミュージアムのショーでした。日本ではミュージアムの解説のショーは、解説音声付きの映像というものが多いのですが、このミュージアムでは立体ホログラムを使ったり、スクリーンを動かしたり、座席を振動させたりと最先端の技術を使っていました。展示にもホログラムが使われていたり、風刺などを用いながらわかりやすく解説していたり、興味をそそられるものがたくさんありました。どこのミュージアムでも体験しながら展示を見られるので、体験して理解するというシステムを日本も導入していかなければならないと思いました。日本はお金や時間がないというのが現実ですが、工夫をしたらもっと良い展示ができると思います。

平日の午後はELIという大学で英語の授業を受けるというものがあり、パソコンや教科書を使いながら文法、スピーキング、ライティングを勉強しました。講師のケイティは訛りが強く、はじめは聞き取るのに苦労しました。授業内での要望は随時マットに伝えていたので、最後には自分たちが納得のいく授業になっていきました。このように、自分のやりたいことを相手と相談しながら実現させていくことができるのがアメリカの良いところだと思います。日本だったら、検討するといいながら何もしなかったり、わがままだといわれて話が終わりだと思うので。

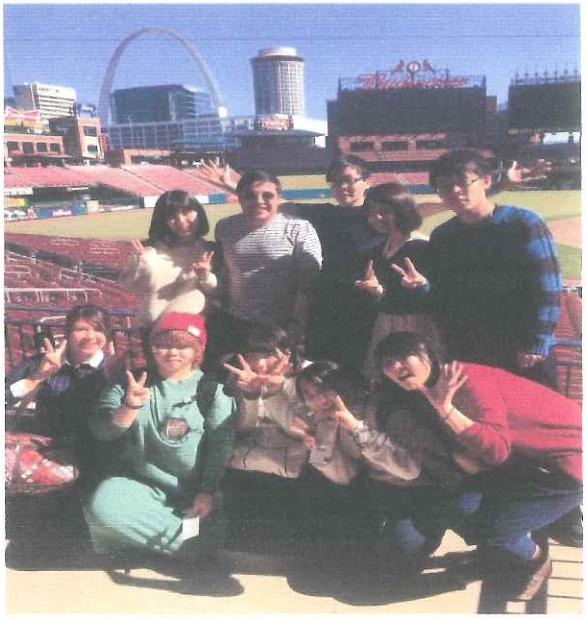
↑ケイティおすすめのコーヒー屋さんへ。

この短期留学で成長できたところは、一人で買い物ができるようになったことです。最初は英語ができないし、通じなかったらどうしようと思っていましたが、だんだん話せるようになり英語も聞き取れるようになったので、自分に自信が持てました。ホストファミリーとの会話も写真や音楽を交えながらたくさん話をすることができました。短期留学をする前は、行っても話せないまま帰ってくるから海外を経験するだけでいいという気持ちでしたが、実際に行ってみると自分のスキルアップが感じ取れ、もっと英語を話せるようになりたい、もっといろんなところを見たいという気持ちになりました。今は大学4年目になり、就職に向けて考えないといけない時期ですが、留学で得た気持ちやスキルを失わないように英語をもっと勉強していきたいと思います。

イリノイ州立大学短期留学レポート

数学教育専攻　4429　大橋　風夏

私は入学当時から留学に興味をもっており、一年間で留学を経験した先輩方や先生方などからたくさんのお話を聞かせていただき、自分が学びたいことや体験したいことに一番合うと感じたイリノイ州立大学短期留学に参加しました。初めは留学希望者が私を含め３名しかおらず、このプログラムが開催されるかも危ぶまれましたが、合計８名の希望者が集まり、無事留学ができることになったのがとても嬉しかったことを覚えています。



留学の準備や長時間のフライトなど、わからないことや初めてのことばかりでしたが、不思議と不安はなく、わくわくとした期待のほうが強かったです。実際に現地で生活してみると、私が抱いていたアメリカのイメージとは違い、日本と同じメーカーの食品や衣料品などがあることや、食事も野菜や果物などを出してくださる家庭であったこともあり、思っていたよりずっと過ごしやすい環境でした。生活面で大変だったことは時差ぼけで、私は規則正しい生活をしていた方なので、深夜になってもなかなか眠ることができず、アメリカ時間に体が慣れるまでに一週間かかりました。

アメリカと日本では街並みが全く異なるので、散歩をするだけでも十分楽しむことができました。週末にはセントルイスなど遠いところに観光に行き、アメリカの都市や人気のミュージアムやスタジアムをまわりました。どれも規模がとても大きく、アメリカらしさを体感できたことがとても刺激になりました。

ホストファミリーや、現地の方々と接して感じたことは、とてもフレンドリーだということです。たとえ相手が初対面であっても、知り合いであったかのように親しみを込めて話してくれたり、言葉がうまく通じなくても、いやな顔ひとつせず理解しようと聞き返してくれるなど、人の温かさを感じることができました。見ず知らずの私を、友達だ、大好きだ、家族だと温かい言葉で迎え入れてくれたたくさんの方々に出会えてとても幸せでした。

昨年同様のプログラムで交換留学生として日本に来ていて、日本で交流することができた二人と、アメリカで再会できたことも思い出です。私のことを覚えていてくれたことがとても嬉しく、アメリカに行く前に、積極的に交流しようと行動してよかったな思えました。

アメリカではひとつひとつの出会いが新鮮で、温かく、できることならまだ留まりたかったほど、素敵な経験をすることができました。風邪をひきながらも付きっ切りでサポートして下さったマット先生や、ホストファミリー、現地でできた友人、共に一か月過ごしてくれた７人の留学生、留学を手配してくれた先生方等、多くの人の支えがあのおかげで、達成できた留学だと心から感じました。この経験は、私に新しい世界や考え方を知らせてくれた貴重なものになりました。これを生かし、より一層成長した自分になって、幅広い活躍ができる人間になりたいです。留学に携わって下さった方々、本当にありがとうございました。

イリノイ留学プログラム報告書

5129　大園　綾奈

私は、今回の研修プログラムを通じて日常では、あまり体験することが出来ないであろう経験をすることが出来ました。そこで、海外研修の成果を 4 つの観点から報告していこうと思います。

▹研修自体について

私が体験したこの研修は、英語力の向上やアメリカにおいての教育のシステムを現地の小学校、中学校、高校、大学などで体験するというものでした。一見、難しく大変そうですが、そんなことはなくコーディネーターのマットを筆頭に私たち留学生が楽しく１か月を過ごせるように毎日おいしい料理を食べに行ったり、週末にはイリノイ州各地に旅行をしたりなどの計画をしてくれました。

最も印象に残っている研修内のプログラムは、小学校の見学に行ったことです。アメリカの小学生たちは、とても可愛く人懐こいのが印象的でした。また、アメリカの小学校には、その学校一つひとつにシンボルとして動物をマスコットにする習慣があったのが興味深かったです。

このことに関してオオカミをシンボルとしている小学校の校長先生に「なぜ、オオカミをシンボルにするのか」を問いました。すると、校長先生は「オオカミは、静かな性質を持つとともに、群れで行動するなどしっかりとした社会形成がされている。ゆえに、オオカミをシンボルとすることで子どもたちにこのような大人へと成長してほしいのだ。」と答えてくださいました。

さらに、子どもたちに手でオオカミの形(キツネを作るときと同じ手の形)を作り、目の間に出すと、皆真似をして黙るのです。これは、先に述べたようなオオカミが物静かである特徴を生かしているのでしょう。私は、この習慣をおもしろいと思ったので、日本の小学校のこのような制度を取り入れてみるのもいいのではと思いました。

アメリカの教育で驚いたことは、おやつタイムがあるということです。おやつに多く含まれる糖分を摂取することで脳の働きを活性化させようとする取り組みのようです。

この取り組みのようにおやつを子どもに与えることで、子どもの脳の活性化を促すとともに、課題が一区切りつく度にご褒美としてお菓子を渡すことで子どもたちの勉強に対するやる気がでてくるのではないでしょうか。

しかし、日本では授業中に物を食べると先生が怒る習慣があります。もしも、この制度を取り入れようとしたら、今までの習慣とは真逆の行為なため万人から理解してもらうためには、まだ時間がかかりそうです。

また、このように毎日甘いお菓子を摂取することで子どもの肥満問題が深刻化する可能性が高くなると予想できます。さらに、現地の母親たちは、甘いものを食べた後、歯を磨いていないことで虫歯が出来てしまうのはないかと不安がっていました。

このようなことからも、日本の教育にお菓子を取り入れる制度はなかなか実施しにくいことだと思いました。

☆大学近く☆

▹各種アクティビティについて

私たちは、毎週土曜日になるとバスでピオリアやスプリングフィールドなどに遠出しました。スプリングフィールドにはリンカーン博物館がありました。

この博物館にはシアターが２つあり、一方は映画館のようなもので、もう一方は人が出てきてプロジェクションマッピングを使用してリンカーンの歴史を語るものでした。私がイリノイ州に行って一番印象に残っているほど楽しい博物館だったので、皆さんにおすすめです。また、野球場を見学したり、シティーミュージアムに行ったりとても充実したアクティビティでした。(写真はリンカーン博物館にて)

▹ホームステイ

私のホストファミリーはアレックスとマリネリ、甥っ子のオスカーといい皆とても優しく明るく気さくな人たちでした。そして、何といっても豪華な家に住んでいました。家に入ってみると、まず目に入るのは大きなテレビとソファーです。このような大きなものが入るのですからリビングは私が今一人暮らししている部屋よりはるかに大きいです。

また、地下にも部屋がありここは想像を超えるものでした。地下にはシアタールーム、バー、ジム、ビリヤードができるスペースがあるのです。私は、毎晩ホストファザーと一緒にそのシアタールームで映画を観ました。とても楽しく、ずっとここにいたいなと感じるほど居心地のよい場所でした。

さらに、ホストファミリーのために、オムライス、ラーメン、餃子など日本食を多く作り

ました。餃子を一緒に作ったり、箸の持ち方を教えたりホストファミリーとの楽しい思い出ばかりが残っています。

☆アレックス＆餃子☆

☆サシャ(犬)☆

☆オムライス☆

▹休日の過ごし方

休日は、モールに買い物に行ったりブルミントンのショッピング街へバスに乗って行ったりしました。イリノイ州立大学の学生だったらどのバスに乗っても学生証を見せると無料で乗車することができます。

また、アメリカのバスで驚いたところは、降車したいときの合図の機械が日本と違うことでした。日本はボタンを押して降りるサインを出しますが、アメリカはボタンではなく車内一周に張ってある電線のようなものを引っ張ることでサインを出します。このような面では、日本の技術の方が勝っていると感じました。(写真はシカゴにて、名物シカゴピザを食べました)

▹最後に

この留学を通して、私は言葉が違くとも楽しい気持ちや、幸せな気持ちはしっかりとお互いに伝わりあっているのだということを知りました。また、私が留学前に知っていた知識や世界は狭く浅いものだったということに気付きました。先入観や偏見を持つべきではないこと、世界には様々な人がいて様々な世界観を持っていることを感じることができてうれしく感じます。

快く留学することを承諾してくれた両親や、本プログラムを企画してくださった北海道教育大学旭川校の方々とイリノイ州立大学の方々、１か月間ともに過ごした学生の皆さん

とホストファミリーの皆さん、本当にありがとうございました。
　この経験を将来に活かせるよう頑張っていこうと思います。

イリノイ州立大学の短期留学

教育発達専攻　教育心理学分野　5046　澁川莉保子

私は、2016年2月13日から3月14日まで1か月間、イリノイ州立大学に短期留学しました。そこで私が学んだことは数え切れませんが、特に印象に残ったことを3つ取り上げて述べたいと思います。

まず一つ目は、失敗を恐れない気持ちです。イリノイに行くと、英語が思うように話せなかったり、文化についてわからないことがたくさんあったりして、毎日毎日、失敗ばかりでした。最初は戸惑いもありましたが、だんだんと失敗が怖くなくなり、少しでも多くのことを学ぼうと、積極的に英語を話せるようになりました。私は短期留学に行く前、失敗を恐れてばかりいて、自分が本当にやりたいことをできなかったり、発言したりできないことが多くありましたが、この経験を通して、失敗を恐れてばかりでは何も始まらないということと、失敗から学べることは本当にたくさんあるということがよくわかったので、これからも失敗を恐れずに、様々なことにチャレンジしていきたいです。

二つ目は、教育についてです。初めてアメリカの小学校に行ったとき、私は日本の学校との違いに本当に驚きました。日本の学校では、それぞれの子どもの机といすが教室の中にきれいに並べられていて、子どもたちは自分の席に座り、先生が黒板の前に立って授業をするという光景がよく見られます。しかし、私が訪れたイリノイ州の学校では、2校どちらでも、それぞれの子どもの机やいすは決められておらず、カウンターに座って勉強している子どももいれば、床で勉強している子どももいるという状況でした。教室にいらっしゃった先生に聞いてみると、「自分で場所を選んで学ぶことで、自主性を育てる」とのことでした。この光景を見たときに、今まで自分の中に根付いていた教育に関する固定観念のようなものが壊され、世界から見た日本の教育について深く考えるきっかけになりました。これからは、もっと広い視野で教育について考えていきたいと思います。

三つ目は、人との出会いについてです。私はホストファミリーに、他の国からの留学生や、現地の人々に出会える場にたくさん連れて行ってもらいました。そこで出会ったのは、人々の温かさです。英語もまともに話せないで、いきなり協会の行事に参加した私にスケートを教えてくれた友達、毎週金曜日のITT（international talk time）の時に一緒にいてくれた友達、毎日話し相手になってくれたホストファミリーなど、本当にたくさんの人の優しさに出会うことができました。この経験を絶対に忘れず、これからはもっと人のことを考えて行動していきたいと思います。